

第2回都市総合開発審議会 (総合分析結果について)

木更津市の強み・弱み

▶木更津市内部の現状分析として、市民アンケート調査・第1回都市総合開発審議会委員の皆様のご発言・他都市との比較分析より、市の強み(人的・組織的、物的、財務、情報資源の優位性)・弱み(人的・組織的、物的、財務、情報資源の課題)について整理・分析を行いました。

木更津市の強み Strength (人的・組織的、物的、財務、情報資源の優位性)

【人的・組織的資源】

- ・市民の愛着度は75.1%、周辺・同規模19都市中6番目に高い水準にある。(市民アンケート)
- ・出生数、社会増数は同規模都市と比較して高い水準にあり、全国的に人口減少が進む中で本市の総人口は増加基調にある。(他都市との比較分析)
- ・「オーガニックなまちづくり」に共感し、推進する若者が一定数存在する。(第1回都市総合開発審議会)

【物的資源】

- ・市の魅力として「東京湾アクアラインや圏央道などの広域道路ネットワーク」などアクセス面での優位性や、「木更津港まつり(やさいもっさい、花火大会)」が特に多く挙げられている。(市民アンケート)
- ・小売業をはじめとする第三次産業(サービス産業)の集積がある。(他都市との比較分析)
- ・NPO法人・自治会の数は同規模都市と比較して高い水準にある。(他都市との比較分析)
- ・市内就業率は同規模都市と比較して高い水準にあり、職住近接の環境がうかがわれる。(他都市との比較分析)
- ・人口あたり高齢者福祉施設・医師数・病床数は同規模都市と比較して多い。(他都市との比較分析)
- ・医療の充実に関しては、市民満足度が46施策中最も高くなっている。(市民アンケート)
- ・住宅の広さ・持ち家取得率・公園面積は同規模都市と比較して高い水準にあり、住環境の良さがうかがわれる。(他都市との比較分析)

【財務資源】

- ・実質公債費比率は同規模都市と比較して低い水準にある。(他都市との比較分析)

【情報資源】

- ・オリジナル自治体アプリの開発が予定されている。(市民アンケート)

木更津市の弱み Weakness (人的・組織的、物的、財務、情報資源の課題)

【人的・組織的資源】

- ・他市町からの通勤流入は同規模都市と比較して低い水準にある。(他都市との比較分析)
- ・労働力率(女性・高齢者)は同規模都市と比較して低い水準にある。(他都市との比較分析)
- ・地区によって人口構成には大差が生じつつあり、多様な福祉ニーズへの対応が十分であるとは言えない。(第1回都市総合開発審議会)
- ・自主防災組織数・加入世帯率は同規模都市と比較して低い水準にある。(他都市との比較分析)

【物的資源】

- ・木更津駅前西口における空き店舗が多く、飲食店等も少なく、賑わいが不足している。(第1回都市総合開発審議会・市民アンケート)
- ・「商工業の振興」の施策満足度が低い。(市民アンケート)
- ・「公園・緑地の充実」の施策満足度が低い。(市民アンケート)
- ・待機児童数が同規模都市と比較して多い水準にある。(他都市との比較分析)
- ・地方部の公共交通網の不足により、生活上不便な地域が発生している。(第1回都市総合開発審議会)
- ・開発に伴う内港の環境の悪化により海での遊泳が出来ない状況にあり、海の観光資源化が十分であるとは言えない。(第1回都市総合開発審議会)

【財務資源】

- ・地方税収や財政力指数は同規模都市と比較して低い水準にある。(他都市との比較分析)
- ・高齢化率や高齢者のいる核家族世帯率は同規模都市と比較して高い水準にあり、社会保障費や介護給付負担増が懸念される。(他都市との比較分析)

【情報資源】

- ・市独自の「オーガニックなまちづくり」を「理解している」「理解し、共感している」市民の割合は6.5%に止まっている。(市民アンケート)
- ・市民のスマートフォンの所持率には世代間で大差が生じており、アプリの取得・活用に当たっては高齢世代が不利になる可能性がある(市民アンケート)

活用できる機会・さらされている脅威

➤ 国内社会経済状況の整理・国・県の施策分析により、木更津市を取り巻く外部環境として、活用できる機会(国内・県内の社会経済状況・市民ニーズ)、さらされている脅威(国内・県内の社会経済状況)について取りまとめました。

活用できる機会 Opportunity (国内・県内の社会経済状況・市民ニーズ)

【国内・県内の社会経済状況】

- 政府主導の地方創生に向けた動き（政府等による東京一極集中是正の試み、都市部の若い世代を中心に高まりを見せる「田園回帰」の流れ）
- 安全・安心意識の高まり（全国的に多発している局地的な大雨等の異常気象や、近い将来に発生が危惧されている大規模地震、高齢者や子どもを対象とした犯罪や、高齢者ドライバーによる運転事故の増加に備える動き）
- 第4次産業革命（IoT（Internet of Things）、ビッグデータ、ロボット、人工知能（AI）等による技術革新の進展）
- グローバル化の進展（滞日・訪日外国人の増加、人口減少による国内市場縮小に伴う販路を海外に求める動き）
- 働き方の多様化（高齢者の労働参加の拡大や、育休・産休制度の拡充等に伴う女性の「M字カーブ」の解消傾向、副業やテレワーク等、新たな働き方の浸透、ワークライフバランスを重視した働き方改革の普及）
- アクアラインの通行料下げによる物流・人流の増加
- 圏央道の大栄・横芝間の開通や、暫定2車線区間の4車線化による機能強化、圏央道にアクセスする道路の整備などへの取り組みによる物流・人流の増加
- かずさアカデミアパークへの企業誘致、かずさアクアシティのまちづくりに関連する千葉県の取り組み
- 2020年東京オリンピックのサーフィン競技開催に伴う競技会場の整備（長生郡一宮町）や成田空港の利便性の向上に伴う波及効果

【市民ニーズ】

- 現行の46施策中、「今後の優先度は高い」施策（上位5施策）として、「医療の充実」、「防災体制の推進」、「交通体系の充実」、「防犯対策の充実」、「消防・救急救助体制の充実」が挙げられている。（市民アンケート）
- 市民活動への参加状況として「機会や時間がないので参加していないが、参加してみたいと思う」と回答した市民は37.6%程度存在している。（市民アンケート）

さらされている脅威 Threat (国内・県内の社会経済状況)

【国内・県内の社会経済状況】

- 人口減少・少子高齢化の進展（生産年齢人口の減少による労働力不足、高齢化の進行による社会保障費の増大、人口減少による歳入の伸び悩み、地域コミュニティの機能低下）
- 政府主導の地方創生に向けた動き（定住・交流人口の確保など、都市間競争の激化）
- グローバル化の進展（生産拠点の海外シフトによる国内空洞化の懸念）
- 全国的に多発している局地的な大雨等の異常気象や、近い将来に発生が危惧されている大規模地震

木更津市の強み

- ・ アクアラインや圏央道によるアクセス面での優位性
- ・ 医療の充実
- ・ 住宅の取得のしやすさ
- ・ 市内就業率の高さ（職住近接）
- ・ 祭りや花火大会等のイベント
- ・ 小売業など第三次産業の集積
- ・ オリジナル自治体アプリの開発計画
- ・ 「オーガニックなまちづくり」の取り組み
- ・ 市民の愛着度の高さ
- ・ 出生数・社会増数の多さ
- ・ 市内NPO法人・自治会数の多さ

木更津市の弱み

- ・ 木更津駅前の賑わい不足
- ・ 「商工業の振興」施策に対する市民満足度の低さ
- ・ 「公園・緑地の充実」施策に対する市民満足度の低さ
- ・ 通勤流入の少なさ
- ・ 海辺の環境の悪化
- ・ 地方部など生活エリアの不便性
- ・ 待機児童数の多さ
- ・ 労働力率の低さ
- ・ 高齢化率の高さ
- ・ 地方税収・財政力指数の低さ
- ・ 自主防災組織数・加入世帯率の低さ

<SO戦略>

「成長戦略：強みによって機会を活かす」

■ 交流・移住人口の取り込み

- ・ 都内へのアクセス面での優位性、医療の充実、住宅の取得のしやすさ、市内就業率の高さ、祭りや花火大会の魅力等を活かし、子育て世代・若者世代を主なターゲットとした交流・移住人口の取り込みを行います。
- ・ 羽田空港・成田空港へのアクセス面の優位性や小売業の集積を活かし、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて増加が見込まれる訪日客の受け入れ体制を強化します。
- ・ アクアラインや圏央道によるアクセス面での優位性や、かずさアカデミアパーク等を活用し、市内への企業誘致を促進します。
- ・ アプリやSNS等、時代の潮流に応じた媒体を通じ、市内外への効果的・効率的な情報発信を行います。

<WO戦略>

「弱点強化戦略：機会を逃さないように弱みを改善する」

■ 港と街なかの賑わいづくり

- ・ 木更津港内港地区の交流拠点整備「（仮称）パークベイプロジェクト」や、木更津駅周辺の街なかへの定住促進に向けたマンション建設の推進により、まちに新たなヒトの流れと賑わいを生み出します。
- ・ 電子地域通貨「アクアコイン」の導入により、商店街など地域内での消費活動を促し、商業の振興を図るとともに、観光客等による域外の消費の呼び込みに繋がります。
- ・ 大型外航クルーズ船の寄港に向けた「クルーズシティ」の推進や、小櫃川河口干潟の環境保全に取り組むことで木更津の海の魅力を高め、国内外から訪れる観光客の取り込みと、市内での回遊性向上を図ります。

<ST戦略>

「回避戦略：強みによって脅威を回避する」

■ 持続可能な地域づくり

- ・ 木更津市独自の「オーガニックなまちづくり」の取り組み・発信を推進し、市の新たな魅力・価値として確立させることで、市民のふるさとへの愛着の維持・形成を促進し、他都市への人口流出を防ぎます。
- ・ 子育て世代に対する包括的な支援や、特色のある教育環境の提供により、市内で子どもを安心して生み・育てられる環境を構築します。
- ・ 既存のNPO法人・自治会活動に対する支援や、地域活動へのボランティア還元ポイント制度の導入などにより、地域活動を活発化させ、子どもから高齢者まで、誰もが貢献し合える地域コミュニティを育みます。

<WT戦略>

「改革戦略：最悪の事態を招かないように弱みを克服し、改革する」

■ 人口減少・高齢化社会、災害への対応

- ・ 木更津駅周辺への都市機能の集積を見据えた「中心市街地活性化基本計画」の検討や、自治会バスなど新たな交通システムの構築等により、「コンパクト+ネットワークの拠点づくり」に向けた取り組みを強化します。
- ・ 増加しつつある保育ニーズに応じた対策を打ち、女性の就労を促進し、潜在的な労働力の活用を図ります。
- ・ 将来的な社会保障費の増加に備え、必要な財源を確保するとともに、「木更津健幸マイレージの導入」による健康寿命の延伸、地域包括ケアシステムの推進による介護予防、福祉サービスの適切化・効率化に努めます。
- ・ 火葬場、水道事業等の広域運用や、広域施設の共同利用、木更津金田バスターミナルのハブ化等、広域行政を推進します。
- ・ 自主防災組織への加入を促進、地域防災力を強化します。

活用できる機会

- ・ 政府主導の地方創生に向けた動き（政府等による東京一極集中是正の試み、都市部の若い世代を中心に高まりを見せる「田園回帰」の流れ）
- ・ 滞日・訪日外国人の増加
- ・ 2020年東京オリンピックの開催や成田空港の利便性の向上に伴う波及効果
- ・ アクアラインの通行料引き下げ、圏央道整備に伴う物流・人流の増加
- ・ かずさアカデミアパークへの企業誘致・かずさアクアシティのまちづくりに対する県の取組み
- ・ 第4次産業革命（IoT（Internet of Things）等の技術革新の進展

さらされている脅威

- ・ 定住・交流人口の確保など、都市間競争の激化
- ・ 人口減少による地域コミュニティの機能低下
- ・ 生産年齢人口の減少による労働力不足
- ・ 高齢化の進行による社会保障費の増大
- ・ 人口減少による歳入の伸び悩み
- ・ 全国的に多発している局地的な大雨等の異常気象や、近い将来に発生が危惧されている大規模地震